

平成 27 年度 女性と市長との懇談会（2 回目）

懇談テーマ：こんなまちであって欲しい～未来の中津川～

平成 27 年 12 月 22 日(火)13：30～15:30

福岡総合事務所 2 階 世代交流室

出席者 女性 19 人 9 地区

市長・企画部長・定住推進部長

市長あいさつ

私が市長になったのは平成 24 年 1 月 23 日で、まもなく丸 4 年を迎えますが、中津川市が大変な状況でした。選挙の公約の中では「和と絆」という言葉を使わせていただきましたが、「絆」という言葉は表に出して話すことではなく、人間が生きていくなかで常に備えていて当たり前のものであります。この和と絆をあえて表に出さなければならない状況がいかかなものかという思いのなかで当選をさせていただきました。合併をして 7 年目を迎える時期で、これから中津川市は合併をした各自治体が人口減少等と新しいまちづくりで大変な時期を迎えるということは十分承知していました。これは県、国等に対する自治体の存在感にも大きくかかわってきます。そのため、新しい中津川市として一体感の醸成に力を入れ、市政へのさまざまな批判や評価もいただきました。そして、みなさまの生活に直結するものでは特に若いみなさんの出産子育ての施策を重点的に行ってきました。人口減少という全国的に抱えている課題にどのように対応していくか。やはり働く場のあること、出産のできる場を作ること、また子育ての支援がしっかりできること、教育の環境がしっかり整うこと、加えて医療関係の充実です。そのあたりに私は重点をおいて取り組んできました。これに安全安心という言葉を使いますが、災害だけでなくみなさんの生活環境を整える、これを安全安心のまちづくりという観点で取り組んできました。

しかし、この 2 年、人口減少が大きな波紋を呼んでいます。昨年、日本創成会議が消滅可能性都市という言葉を使いました。この人口減少がそれぞれの自治体にどのような問題を及ぼすか。たとえば中津川市、合併時に約 8 万 5 千 3 百人の皆さんが中津川市民になりましたが、今回の国勢調査で約 7 万 9 千となり、この 11 年で 6 千人もの人口減少があったということで、一日に換算すると約 1.7 人の方が減っています。この状態がここ数年続いていると、これは社会保障制度の崩壊につながりますし、地元企業が労働力を確保することができず、仕事があっても仕事ができないなどの状況になるわけです。また、皆さんの地域でも小売店、商店が少なくなってきたと思いますが、商売にならないということです。こうしたことが私たちの消費力を低迷させ、中津川市の全体的体力が衰えていく。これが人口減少の怖さです。しかし、中津川市だけでなく全国の自治体が同じような問題を抱えてお

り、対策をしっかり打たなければならない。中津川市は平成 17 年に合併して 22 年頃までは人口は横ばい状況でした。それ以来、人口が下がっている状況で加速度がついてきて、社会の仕組みや中津川市の産業構造を含む構造が大きく変化しかねない。どうやって歯止めをかけるかが人口問題です。医療や年金など、さまざま面で社会保障制度が成り立っていますが、こうした制度の維持ができないということも大変な課題となっていますので、これからの中津川市のまちづくりにはこの人口問題を重点に進めていくつもりです。中津川に住んでいただく、住んでよかったといってもらえるまちづくりを進めており、過去には U I ターン住宅という施策もやってきましたが、それだけでは人口の課題解消にはなりません。やはりしっかり働く場所と業種的な選択肢があること、結婚、出産、子育て、教育、医療という環境をしっかりと整えるということを定住推進部が中心となってやっています。このあたりがみなさんから多くご意見をいただける場面ではないかと考えています。

また、これからのまちづくりでは、「安全安心なまちづくり」が外せないところです。そして、これからの後継者を育てること。学生さんだけではなく、中津川市には多くの産業があるので、工業・商業・農業・林業の後継者もしっかり育成をしていく。中津川市は 1 市 7 町村が合併したわけですが、それぞれの地域のこれからの活力は後継者なくしては語ることはできませんので、後継者の方が希望をもって家業を継いだり、地域で働く場を確保して提供していくことがこれからのまちづくりの大きな核となってきます。

合併してよくなったのはごみ袋が安くなったただけだという方もいますが、当時なぜ合併されたか。現在全国に 813 の市がありますが、平成 17 年、18 年の合併で 427 の新しい市が誕生しました。その時国にはこのように説明されました。国も大変財政が厳しく、地方自治体に交付税として払う税金も減ってきます。小さな自治体と一緒にすることによって体力をつけてください。合併した場合は交付税を 10 年間続けます。中津川市ですと 8 つの自治体と一緒になったわけですが、各自治体のそのときの合計した交付税の金額を 10 年間払いますよということです。しかし、自治体も苦しくなっており、この 10 年間で、一緒になって新しいまちづくりとしての形を作ってください。10 年間のまちづくりで、新しいものを作るときには、「合併特例債」という借金のうち 3 分の 1 は返さなくてもいいですよというシステムを作りました。そして、新しく 427 の市が誕生し、10 年経ちました。そのうち、9 割 390 の市が「とてもだめです、できません」と言っています。当時つくられたタイムスケジュールのうち、着実に実行されているのは職員の削減です。皆さんの各地域の職員は合併前と思うとずいぶん減りましたね。それが実態です。反面、皆さんの生活がさまざまな多様性を持ってきており、行政が従来の仕事だけではみなさまにサービスできない。子育てもずいぶん複雑になってきました。あわせて、高齢化、福祉関係、介護関係が加わり、行政がリードしながら行わなければならない施策がずいぶん増えてきました。今まで 3 人だったところに 5 人職員を配置しなければならない。これが現実で、427 の内の約 9 割の 390 の市がこれではとてもやっていけませんという状況に現在なっています。

そんななか、2 年前にリニアの駅、リニアの車両基地・車両整備工場という市のアドバ

ンテージとなる決定がされました。リニアだけで中津川市のまちができるとは思っていませんし、リニアを迎えるにあたっては環境問題があり、車両基地・整備工場のできる坂本地区の皆さんにおいては大きく環境が変わるわけですので、この対応をJRと国と現在行っています。しかし、これを活かせることも間違いのないことです。

そういうことを中津川市の総合計画のなかでちりばめて、この10月「まち・ひと・しごと創生総合戦略」としてスタートしたところです。今日みなさんにこの内容をすべてお話すれば、意見交換しなくてもすんでしまうような内容になっています。これはのちほど、今日話をさせていただいたその総括として、皆さんに御目通しをいただきたい。私が今日、皆さんからいただいた質問に回答する内容も、ほぼ総合戦略の内容に沿っていますのでご確認をいただけたと思います。これからの夢のあること、逆に大変厳しい時代がまだ続くのを若干辛抱していただかなければならないことという両方をお話させていただきました。しかし、私どもは将来に向けて若い方たちに住んでいただく、そして最後には住んでよかったと言ってもらえるまちづくりを目指していきますので、どうかよろしく願いいたします。

・〇〇さん

中津川市の魅力は自然が豊かなことで、乙女溪谷や夕森公園や星ヶ見公園などいろいろな名所がありますが、もっと身近なその辺に生えている草や木もすごく魅力的です。子どもがそんな自然のなかで遊べば地域への愛着がすごく湧き、大学などで外に出ても、自分が遊んだ山や川が懐かしく好きだと思って戻ってくると思います。自然のなかでもっと子どもに遊べるように、そんな環境をこれからもどんどん保全していただきたいです。具体的には山の手入れをしていただきたいです。私は恵那市出身で、この地域の自然って本当にいいなと思っていて、大学は遠くに行きましたが、戻って農業に関わる仕事をしています。私の夫は坂下出身で幼いころから、山や河原で夕方まで遊んでいたそうです。今は坂下では全然そういった遊びが出来ません。幼いころ遊んでいた山も入れないし、サルも出たりと危ない感じになっているので、山の手入れをしてほしいです。具体的には「稲荷山」という山です。森林関係の仕事をしている方から、昔ほどの地区にも森林組合があったけど、市が合併して森林組合も合併し、坂下で以前のような仕事がなくなってしまったと聞きました。もっと手入れしたほうが良いところがたくさんあるのにほとんど放置されていて、サルが増えてきた原因かなと思います。また、田んぼや畑の景観も中津川市の魅力だと思っていて、それも心配になってきています。今、田んぼの作業をされているのは60歳以上の方ばかりで、息子さんたちがいてもやってない人のほうが多く、数十年後には中津産の美味しいお米も食べられなくなるのではと心配です。ソーラーパネルが最近目立ってきていますが、景観もよくないですし、田んぼのダム機能が失われて氾濫が起こるのではないかと心配になっています。田んぼが使われなくなると、そこに住んでいる生き物もいなくなってしまう良くないと思います。悩みばかりですが対策も考えていて、子どもたち

も数年後には大きくなって働ける戦力になりますし、もっと子どものうちから、農業の現場見学や体験をすべきだと思います。小学3年生の子が田植え体験をしています。いろんな学年の子もやればよいと思います。坂下で行われている椈の湖の農業学校にボランティアに行っていますが、そこに来る子は名古屋とか都会の子ばかりで、むしろ田舎に住んでいる子どもたちのほうがそういう体験ができていない気がします。地元に住んでいる子がもっと農業の大変さや喜びを体験すれば、さらに地元の愛着が湧くと思うので、農業の体験を増やすといいかなと思います。

・〇〇さん

私も今5歳の娘がいて、名古屋から加子母に来て18年になります。加子母だと保育園児がいなごをとってきて、調理師さんが佃煮にしてくれて食べますが、今年はいなごが少なく、給食にでるほどとれません。田んぼの管理が影響しているところだと思います。また、太陽光パネルのお話がありましたが、加子母でも山のほうで太陽光パネルをとるところどころで見かけます。特に高山のほうで山が一面太陽光パネルになっていて、すこし心配になります。山を持っている方と話をすると、おじいちゃんおばあちゃんの山仕事が大変なので、一部分だけ太陽光パネルにしたらどうかなという話をしたら、地すべりなどが考えられるのでやめておこうという話になったと聞きました。やはり、山は自分の土地だけではなく、何かあれば山全体に影響しますし、動物も住んでいますので、太陽光パネルも気になっています。特に、住んでいる方ではなく、外に出ている地主さんが対策でやっているの、そのあたりを市でも基準などを考えていただければと思います。

市長

太陽光パネルについては規制はありませんが、12月の議会でも一般質問が出ました。今、要綱を作っていますが、これはあまり強い法的な制約がありません。どこまで規制をかけることができるかは環境に配慮して設置者にお願いをしなければいけない。一番心配しているのは、1000㎡以下の太陽光パネルの設置については特段の届け出は必要なく、知らないうちに作られていることがたくさんあります。今言われたように、山に作るとどっと流れやすい状態になるわけですから、これは環境破壊の第一歩なのですね。環境にいいということで始めた太陽光が環境破壊をする。これは実は我々の周りにいっぱいあるんです。太陽光については、これから問題となると思います。15年後が心配です。なかには鳥獣害の対策にいいのではと言われる方もいますが、そういった次元の話ではないのです。太陽光については、規約を作って対応させていただきますが、おそらく全国的にもっと評価されていくと思います。中津川市もそのことは対応するつもりです。ただ、現状では1000㎡以下のものには届出の必要がなく、農地に作る際には転用届が必要ですが、山に作る際には関係ないので詳細が分かりにくい。また、中津川市の人を作るより市外の人を作る方が多いので、日常の管理やなにか起きたときにすぐに連絡ができるかどうかということ

も問題となります。しっかりと要綱の整備をさせていただきますので、ご理解をいただきたいと思います。

そして、山林です。私も小さいころよく山で遊んでいました。山は清々しくて、今も恋しいんですね。今、国道を通ってもずっと透けて見えるところが少ないですね。私が子どもの頃は50mくらいまで山の雑木とかがなく、中までずっと透けて見えて本当に気持ちよかったです。10月に中津川市森林組合、加子母森林組合、付知森林組合の3人の森林組合長さんに集まっていただき、中津川市の農林部の職員と私も入ってはじめて会議をし、これからの森林づくりについて話し合いをしました。お互いの課題をしっかりと出し合い、これからの森林づくりをどうするか、また森林組合と行政の役割としてこうしたいという話し合いを持ちました。ただ、一回目でしたので、課題をしっかりと出していこうという入り口に立ったところでした。方向としてはこういうことをやり始めました。しかし、この30~40年手をつけていないので、大変厳しい状況です。一番手入れがされているのは国有林で、2番目が市有林です。3番目でほとんど手をつけていないのが、小さな山持ち。林業を生業とされている方は別ですが、ただ自分のうちに山があるという人の山はほとんど手入れされていません。そのため、木が乱立して根と根がお互いに絡み合い、根が枯れてしまうことで崩れやすくなるおそれがあり、山崩れのひとつの原因となっています。これについては11月に林野庁にお邪魔をして、中津川市の現状をお話しました。中津川市676km²、琵琶湖が670km²で、ほぼ同じ面積です。この広い中津川市のうちの79.6%が山林です。これをいっきに手入れをするということはほとんど不可能ですので、これからの施策で環境という観点から山を捉えていく計画です。どうかよろしくお願いします。

農地の関係は大変厳しい状況には変わりないのですが、定住推進部や農林で担当してくれています。ふるさと回帰支援センターというNPOの法人が東京にあり、お邪魔しましたら、月に1000人を超える相談があるそうです。地方に行って農業や林業がやりたいという相談が非常に多いそうです。中津川市でトマトや牛などこんな農業をやりませんかという説明をし、来ていただく、住んでいただく、農業をやっていただく、そうしたことも今進めています。なんとか早いうちに一つの形になればと思っていますので、もしみなさんの周りにそういう方がいましたら、応援をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

・〇〇さん

約20年前に東京から坂下に来て10年、そして素晴らしい環境の川上に来て10年目を迎えます。分譲地に土地を買って家を建て、窓から川上川が見えて大変美しいのですが、近年の自然災害の不安があり、ここに土地を買ったのはまずかったと思っています。きれいなところがあるということで住むことになったのですが、本当に山が迫っており、近くに林道もありますので、その林道に倒れた木など土石流が押し寄せてきそうで怖いと思って

います。私は農村の景観がすごく大好きですが、こんな美しい景観はいつか終わりがくるからしっかり見ておこうと思い、なんとか中津川市が現状維持をしていくにはかなり努力が必要なかなと思っています。

・〇〇さん

私の隣に住む 80 歳と 70 歳の姉妹の方がおり、よくお邪魔していろいろなお話をするのですが、そこのおばあちゃんが言っていたことですごく心に残ったことがあります。今の人はこんなに便利になっているのに、忙しいと言うけれど、炊飯器のボタン一つ押せばごはんも炊けるし、電気もボタン一つでできるし、ちょっと遠いところだって車で行くこともできる。それでも忙しいというのはなんでやろうねって話をし、本当にその通りだと思えます。今以上に便利さが必要なかなって思っていて、それよりも大事なものってたくさんある。今話されたことはそういうことだと思うんです。なので、私たちは今の時点で恵まれた環境だと思うんです。人が生きる楽しみってなんなのかと考えたときに、やっぱり自然や、人と人とのつながりや温かさだといつも思いますが、今の現代社会はそういうのとか離れ過ぎて、見失っている人が多いんじゃないかと思うのです。なので、そういうことに気付けるような政策をしてほしいなと思います。いくら市がそういうことをしたとしても、人が変わらなければ変わらないと思うので、一つ何か変わるだけで色んなことが変わらと思うのです。与三郎祭りのときにごみを減らすためにはどうしたらいいかという井戸端会議があり、生ごみを燃やす燃料がすごくお金がかかるということを知ったので、私はそれまで燃えるごみで出していた生ごみを、庭に穴を掘って3日に1回ぐらい捨てるようにしています。それを一つ変えると、土に還すということからいろいろなことに気付いて、そこからまた変わってくると思うので、気付く機会を作りたいと思います。

市長

今のお話は人生観であり、若干哲学的な部分にも触れると思いますので、何が良い、悪いというそれぞれの価値観というものがあります。最近、五木寛之さんの本をもう一回読み返していて、生き方にあたる部分を見つけました。仏教でお布施というものがありますね。東日本大震災で多くのボランティアの方が地元に入られて4年間経ち、その4年のなかで自分たちは一生懸命ボランティアをやっているのに、地元の方との意見が合わなくなってきて困ったという話をされた。それに対し、五木さんは自分の立場で、ボランティアでしょと言っても相手の方には理解してもらえない。ボランティアは布施として自分たちのために行を行うので、これは災害にあった人のためにやっているのではなくて、ボランティアという行為を通して自分を高めるためにやっている。誰かのためにではなく、自分のためにやっているんだから、相手の方に自分の気持ちが伝わらないと思うこと自体が違うという話なんです。災害が発生して、大変だから助けようなのか、助けるという行為で自分を鍛えるのか、そこにやはり人生観の捉え方があると思います。

私もよく両方から見る。先ほどのエコの話もそうです。利便性を手に入れて必ず失うのです。それは家族とのコミュニティーや団らんの場合であり、なにかを失う。携帯電話で遠いところの人といつでも話ができるようになりましたが、身近な人と向き合って話をするのが少なくなってしまうんですね。また、自動車は便利で時間を買うことができますが、体力が衰えるので、今度はスポーツクラブへ行って鍛える。そんなことをするなら歩けばいい。それが先ほどの隣の70、80歳の方が言われた話だと思うんです。私は利便性を手に入れることは残念だけど何かを失うと思っています。ですから、昔からよく言われました。人間は動物と同じで、嗅覚も強かった、目ももっと見えた。耳ももっと聞こえた。しかし、人間としていろいろな道具を手に入れることによって、そういったものがだんだん退化して、今の人間になったんだと。やはり手に入れるということは何かを失う。失いたくないのなら、その利便性を手に入れないことです。という私の人生観です。

ごみ問題については、何度も説明をさせていただいたり、広報にも特集記事を掲載していますが、ごみを燃やすための燃料費は、約10億2千万円かかっている、水分率50%で燃やすのか、30%で燃やすのかで全然変わってくるんですね。これは、もう少し皆さんに考えていただければ、随分改善できることですので、まだまだ中津川市は改善できると思います。

28年度予算の査定をしているところですが、変えられるところがまだあるんじゃないかと話もしていますが、市民の皆さんのご協力があって初めて達成のできる場所ですので、我々もしっかり発信を続けていきます。こうして話されたことを皆さんが地域で集まられたときにぜひ話題にし、広報やホームページに出るねと言っていただければ、地域で広めることになりますので、どうかよろしくお願いします。

自然は壊れています。自然は素晴らしいけど、手を入れない自然は怖い。去年7月9日に南木曾町で土石流があり、2日後に現場へ行きました。ある方の講演を聞いたときに、一番怖いのは竹藪でその次に杉と言われ、地震があったら、竹藪へ逃げろと聞いていたので驚きました。竹は横には根をはるけど下に張るのが弱いそうです。杉も同じのことです。土石流の際は今まで川ではなかったところから水が流れたんですが、竹が多いんですよ。別の箇所では水が出たところでは杉が多く、講演で聞いた話のとおりだなと思いました。被害はあれで収まったという言い方をしていますが、国交省の砂防ダムが5メートルかさ上げをして完成したばかりだったんですよ。以前から10メートル位あったものをさらに5メートルかさ上げたところに、私が7、8人手をつないでまわるくらいの石が乗り上げるようにしていました。もし砂防ダムがなかったらもっと下に流れて行って、被害をもたらしたのではという状況でした。自然は破壊してはいけないが、ある程度手を入れることがいかに大切かを教えてもらいました。それからまもなく広島で大きな災害がありました。そのころ無計画に民間業者の方がどんどん乱開発していて、山からの崩れで大きな災害になってしまった。そういったことが実は至るところでありますので、私は安全を守るために自然を手入れしなければならぬということを肝に銘じています。そのままの自然という

のは怖さがある。ですから、そのことは皆さんの頭のなかにしっかり置いておいていただきたいです。

最後に、私は「風土千年、風景百年」という言葉をよく使います。風土千年は我々が生きてきたなかで作ってきた文化です。風景はその文化のなかから生まれた景色ですよね。風景を作るのに百年で、風土を作るのに千年ですよ。お金をかけてビルを建てれば10年でもできます。そうした歴史や時代、時を重ねなければならないとできない重たさを我々はしっかり知らなければならないなという私の人生哲学です。そんななかで生きていくということについてお互い理解し合うということをお互いみなさんにどんどん知っていただきたい。行政でやっていることを皆さんの力を借りてPRしていただきたいです。行政の発信力が弱いではなく、それを知った人が行政でこういうことをやっているよとぜひみなさんの声を大にして周りの人に言っていただきたい。よろしくお願いします。

・〇〇さん

まあいいところ事務局長をしております。一番乳幼児のお母さんたちの声を聴いているのではないかと思います。

保育園・幼稚園の申し込みについてにぎわいプラザの4階にある幼児教育課で行うわけですが、4階のフロアはとてもシーンとしたところです。小さな子どもを抱っこした状態で30分～1時間の話を聞きましょうと言われても、子どもは走りまわり、泣いたりしますので周りの市の職員の間も気になります。そんなところで周りの目を気にせず、保育園・幼稚園の話聞くのは無理です。11月、12月の時期だけでも3階のフロアに保育園・幼稚園の申請の特設会場を設けてお母さんたちの意見を聞けるようにするのがベストだと思います。

もう一つ、よくお母さんの悩みで言われるのは、上の子はこっちの保育園、下の子はあっちの保育園という話を聞きます。朝のこれから仕事に行かなくてはならないという忙しいときに、子どもの保育園の準備をして上の子はこっちの保育園に、下の子はあっちの保育園に連れて行く、また、帰りも一生懸命に片づけて別々に迎えに行くのはとても大変です。これからの時代女性が働くことは必要なことです。キャパシティがないのはわかりませんが、せめて兄弟だけでも同じ保育園に受け入れられるようにしていただくと暖かい市になると思います。

・〇〇さん

私も同じところで働いていて、保育園のサポーターのお仕事をしています。保育園を二手に分かれて行っているお母さんがいますが、理由は保育士不足と言っていると聞いて、子育て支援として保育士の補助という形で北野保育園に行っています。私たちは岐阜県の子育てマイスター、中津川市の子育てサポーターという講座を受講して、免許ではないで

すが、資格認定を受けてこのような活動をしています。そんな人をこれからも増やし、私立公立ともサポーターの力を活用して、子育て中のお母さんが働きやすい中津川市にしてほしいというのがこちらからの願いです。

・〇〇さん

加子母は逆の状態です。子どもがいません。今一番少ないクラスが十数人なのです。それでも保育士が少なく、今年園で正規の保育士が二人急に減ったので、園の中だけでもいろいろと難しいことがあり、保育士を増やしてほしいと言っています。

加子母は小学生が少ないので、教職員が少なく、教職員住宅が余っている状態です。でも教職員しか入れないので空いていて、加子母に移住したい人がいても住めないのです。加子母の村づくり協議会の少子化検討委員会でそういう話もあり、思いつきました。保育士を増やすという話を園でしましたが、国の基準などもあって給料もこの市だけ無理に上げられないことも聞きました。例えば、Iターンで保育士の資格を持ったご家族で子どももいる人が来たら、保育士も増えて、子どもも増えてきます。そして、教職員住宅も住めて家賃を免除すれば、給料は少なくても良いと思いますができませんか。保育士が少ないと聞くので、これ以上増やせというのは難しいとは思いますが、特典がつくから中津川市でやれば良いと思われれば、保育士も園児も増えて素敵じゃないかなと思います。

市長

子どもさんが気になってしっかり相談ができない状態では、十分な相談ができません。本来はこちらから配慮してそういったことに着手するのが当然ですが、それができなかったことは本気度が足りないと言っておきますので、しっかりとやってくれると思います。

兄弟は同じ園でという仕組みはそれぞれの希望がありますので、本来それが一番いいということはわかります。逆に二人同じ園に通うために、一番近いところではなく別の園に行かなければならないというところの納得がいただけるかが重要になってくると思いますので、そのあたりをしっかりと担当部署と議論させていただこうと思いますのでお願いします。

そして、保育士不足ですが、この議論をしますと、今国が進めておりますコンパクトシティというまちを集約する話になります。例えば福岡のこの地域の決まった範囲内にみんな集まって、あとは人は住まなくてもいいですよという話ですよ。これに一生懸命を入れているのが富山市で、30万人の人口を半径5キロところに集めてしまうわけですから、中津川市ではできませんし、やるつもりもありません。しかし、それくらいのことをしないと地方自治は大変厳しいというのは間違いのない現実です。合併して新しいことをするために今まで8つの自治体がやってきた2つのことを1つ、3つのことを1つにして、新しいことに手を出していかなければならないという仕組み作りなんです。保育士の方は子ども相手でも腰を痛めたり、体力的につらくて辞められる方もずいぶんあります。そうした

現場のこともよく承知していますので、基準だからこうしろというつもりはないですが、そこにしっかり手を差し伸べるためには得るために失う、失わないように得なければならぬという作りになっていくと思いますので、これも検討させていただきます。少ないからすぐに増やすということはなかなか結びつかないのも現状ですので、お願いいたします。

住宅の家賃免除のことですが、ヒントをいただきました。面白いアイデアだと思います。攻めの発想というやつですね。特典をつけるということは今の予算査定でも、この事業とこの事業を組み合わせれば効果が出るんじゃないかという話もしています。アイデアとしていただいたと認識させていただきますので、よろしくをお願いします。

・〇〇さん

レディースサークルの代表として来ています。あと個人的には文化協会でもいろいろと長年仕事をしています。10年くらい前から思うと補助金も徐々に減っています。行政も人数を減らさなければならないということですが、いろいろな団体は活動していかなくてはいけない。文化協会にいても実際みんなが別で仕事をしています。付知では年に3回文化祭を開催しており、シーズンになると、書類などで本当に大変です。今はパソコンの時代で、文化協会は平均年齢がどんどん上がり、パソコンを使えない方もいます。また、若い方の加入が本当になんて少ないんです。若い子達も生活で手一杯で、感覚も違います。私たちは団体でやるのは楽しく、嫌々でもやっていかなければいけないという意識がありますが、私達より下の人たちは集団でワァーとやることを不得意とすることが多い。文化協会をなくしてしまえば簡単なのですが、それで良いのか。比較的スポーツは大勢で参加しているなどという感じなのですが、文化協会は趣味の一環で好きな人たちがやっているんじゃないかという感覚なので、維持が非常に大変なのです。レディースサークルも大変で、付知は残っていますが地区によってはなくなったところも多いと思います。役が回ってきそうなので遠慮したいようです。

何が言いたいかという、「文化」って必要なのでしょうか。必要だとしたら、みなさん文化協会だけでなくいろいろな団体に所属していると思います。また、中津の総合文化祭では市の文化振興課の方が事務局からなにまで本当にしっかりと担当されて、文化会館ですばらしいのをやっていますが、旧中津川市が中心で、恵北地区はお客さんとして1つ2つ出ませんかと言われてるように感じます。とにかく市の職員が目に見えてわかるんです。付知の場合はお願いすれば付知の職員さんも協力はしてくれますが、素人的な役員がやっていますし、年々頼みづらくなってきている。そんな中で、お前たちだけでやれよというのはさみしい。各団体にいい考えがありましたらお願いします。

・〇〇さん

私も2つの団体活動をやっています。市民協働課ができたときに、一緒になって何かやってくれるととても期待していました。主婦が集まって作った団体なので、NPOにする

かどうかも何度も説明会に行ったし、書類の書き方とか、行政的な部分は本当に分からないので、きっと市民協働課は助けてくれると期待しましたが、一切なかったんです。もう少し市民に窓口を開けた課があってもいいのではないかと思います。先ほどごみの話をしましたが、NPOを立ち上げれば、きっとすごいものやってくれると思うし、私たちも子育て支援団体とか総合型のスポーツクラブをしています。そういうことでもいろいろお手伝いしたいことがたくさんある。だけど、行っても「検討します」で終わってしまうことが多いです。市民協働課を市民に開けた、お金を出してくださいではなくて、書類の書き方や団体活動をこうしたら良いとかそういったことを助けてくれる部署があってもいいです。

市長

文化が必要ですかと言われたら、必要ですとしか言えませんので難しいですね。付知おんぼい節という保存会があります。今年も伊勢神宮の神嘗祭の奉納、姫路城の運命の木という西の本丸の芯柱が姫路城の改築に合わせて新しくなりました。そのときに姫路城の三の丸の広場でおんぼい節が披露されました。

ただ、運営の仕方には課題があると思います。今年も11月に中津川市の文化祭を開催し、各地域でも文化祭がありました。それぞれの地域のみなさんの思いの中で今までずっとやっている文化祭ですが、文化祭のための文化祭になっているという面もあるんですね。今回の中津川文化会館で開催した文化祭では、市内全域の代表の方に集まっていただいて披露してもらいました。年に一回の発表会で全地域でやろうとすると大変な労力になると思います。地域ではプログラムを練習の延長として開催していただき、中津川全域で1本で開催をするというのも一つの方法だと思います。場合によっては歌舞伎ホールでもできると思います。

そして、市民協働は私も期待していました。今はかたちも変わってきていると思いますが、2年くらい前には機能していないじゃないかと随分話しました。前回の女性懇談会で、松戸市には40年くらい前に「すぐやる課」という課があったという話ができました。その課がまだ残っているかは確認していませんが、それをイメージしていました。スタート地点は迷惑をかけたと思いますが、今みなさまと一緒にまちを作るという取り組みも力が入ってきていますので、もう一回相談してみてください。たぶん違う答えが返ってくると思いますので。よろしくお願いします。

定住推進部長

NPOについては県の扱いになります。県の方に書類を何度も行ったり来たりしなくてもいいように合理的に済ませられないかと、内部的にも検討していますので、またぜひいらしてください。

また、文化活動についてですが、付知では「がんばる地域サポート事業」で、他の団体さんもまちづくりなどに関して活躍してくれています。自分たちと共通した取り組みをし

ている方との横のつながりを持ってやっていただければ、職員もいろんな形でサポートできると思います。困ったことがありましたら、所長に言ってありますので、ぜひ付知の事務所に行ってください。よろしく申し上げます。私も付知の文化祭も見に行きましたが、コンサートなどもやられてなかなか楽しい文化祭でした。

・〇〇さん

娘からのお願いなのですが、子育てをするにあたり、小児科が大変少ないので話してきて欲しいということでした。内科を兼ねて小児も見て下さるところもあるのですが、時間に連れていっても待たされて小さい子には大変なので、そのへんを話してきて欲しいということでした。よろしく申し上げます。

市長

今小児科医が大変疲れています。中学生まで無料でやっていますので、学校が終わるとどっど行かれますね。小児科は嫌だという先生もいます。今中津川市民病院の院長は小児科医です。院長は自分の科だけではなく、看護師さんも含む医療スタッフ全員を管轄する立場ですが、病院の在り方については2カ月に1回定期的に報告会をしています。小児科医のみなさんが大変疲れているというのが現状です。今、医師を獲得するのが大変厳しい状況です。中津川市民病院は名大系医師が多いのですが、10、15年前はどことこの自治体で医師が不足していますので、私たちのまちに来てくださいと医局の教授にお願いすると、「はいわかりました」とだいたい配置がされました。やはり若い先生たちの生活も変わってきて、特に小中学生のお子さんがいて、名古屋で勤めているお医者さんが中津川市へという、まず断られます。子どもの教育が心配なので、通いになるのか単身赴任なのかという問題が出てくる。

また、高度医療、機械もどんどん変わっていき、高度医療の最先端で働きたい。まちの開業医のような総合医療ができる医師を目指したい。二通りに分かれています。市民病院も苦労しながら医師の確保をしているところですが、小児科医がどこのまちでも小学校や中学校まで無料というのがあり、大変いいことだけでも、医師の観点からすると大変な負担だというお話をいただいています。しかし、若い方が住むということは小児科の充実は私どもの務めとなりますので、これからもそうした話を院長とさせていただきます。確認ですが、市民病院ではなくて、坂本での小児科医の確保ということでしょうか。

・〇〇さん

地域であればさらによしです。市民病院は午前中しかやっていないので、できれば午後もやって欲しいというのが希望です。

市長

医師のローテーションもありますので、そのあたりを一度話させていただきます。よろ

しくお願いします。

・〇〇さん

先ほど財政状況の話があり、私は小学生と保育園の子どもがいますが、この子たちが大人になったときに、果たして国や自治体の借金がどうなっているかがすごく心配です。医療費無料は非常にありがたいのですが、私の周りでも無料だから鼻水が出たくらいですぐにお医者さんに飛んでいき、鼻水で行ったのに虫刺されの跡を見せて、ステロイドをもらってくる人がいて非常に愕然としました。こういうことをするから日本の医療費は膨大な金額になるんだなと思います。私自身は風邪をひいたら鍼灸で直しますし、子どもも熱が38度くらいにならないと病院に連れて行かないのですが、そういった一人一人の意識を高めていく必要があると感じています。

今、私は介護施設でリハビリの仕事をしています。介護には認定があり、認定の日には症状を重く話をして、できるだけ介護度を重くしたいというご家族も結構ある一方、戦争を経験した時代の方は本当に頑張ってしまう、歩くのがやっとなのに要支援になってしまったり、団塊の世代の権利を主張する方は認定の日だけ症状を重くして、要介護2がついていたりとか。とてもおかしいと思うことが現場ではあります。聞いた話によると、団塊の世代が高齢者になってくると、医療費が年間に1兆円ずつ増えると聞きました。医療費の伸びがこれからの国や自治体の財政を圧迫しているので、市民ひとりひとりがもう少し自立をしていくといいのではないのかと考えています。

先ほどの水分を含んだ生ごみの話や10億円かかる燃料費にもショックを受けました。広報にも掲載されているとは思いますが、私も飛ばし読みで知らないこともたくさんあります。資料にも市の財政状況がすごくわかりやすく書かれていたので、こういったことを市民の方に伝えて、ひとりひとりの意識を変えていかなければ権利ばかりを主張して、道に穴が開いたからすぐ直してくれとか、カーブミラーをつけてくれとか言うことは簡単ですが、そうしていくときりがなくて、次の世代が大変な日本に住まなくてはいけないと思うのです。ですので、市民の教育や今の子どもたちにもう少しそういったことを伝えていただけるといいかなと思っています。

市長

こうした座談会はいろんな形で開催しています。実は老人クラブのみなさんとも話をさせていただき、年金は減るし老人いじめだという話をするのですが、私が必ず言わせていただいているのが、若い方はもっと大変ですよということです。今、若い方は正職に就かず、なかなか将来の夢と希望を語ることも少ない。自分たちがどうなるかわからないという思いで若い方の一部には悲観的な気持ちで人生を送っている方もいるので、みなさんには我慢をしていただきたいという言い方をしてしまうときがあります。海外の相当な勢いの、特に中国の力で、日本が経済的に消えてなくなるのではないかと。中国がさまざまな面

で存在感が増せば増すほど、日本の存在感がなくなっていく。安部政権は一生懸命日本の存在感を誇示しようとしている。千兆を超えるような国債になってきたにも関わらず力を入れているところがまさにそういった部分だと思います。今は踏ん張り時で、千兆ないし二千兆使っても三千兆返ってくればというのがひとつの見通しですよ。千兆使って返ってくる可能性があるかどうか分からないのは無茶ですよ。そうした計画でどういう収支バランスでされているか、なかなか正確なところは伝わってきませんが、ここが踏ん張りどころだということではやっていると思います。

これを中津川市の財政に当てはめると如実になってきます。これが平成17年に国が合併するよう指導をしましたということは今も引きずっているという状況です。このことは中津川市なりに将来の子どもたちに負担をかけないように事業の組み立てをしているつもりです。現在の課題解決、将来返ってくるということを踏まえての投資、しっかり使い分けていくということが大切だと思います。ただ、国に納めるものについては、我々だけではどうにもならないことがありますので、今度は県、国に対してものの言える自治体であり続けるということが大切になってきます。また、こういった話をみなさんのなかでも共通の話題として広げていただいて、若い方が夢と希望をもって生活できることを、私もしっかりと目指すつもりです。よろしくお願いします。

・〇〇さん

他の地域はほとんど下水が整備されているが、坂本は下水が遅れながら進んでいる。私の近所は下水の見通しがたっていないという答えを聞いている。計画になっていないなんて言わないで検討して欲しいです。

・〇〇さん

学童保育所の役員をやっています。仕事と育児をしています。学童保育所があることはありがたいことです。今までは、受け入れ希望があれば何とか受け入れていたが、現在保育スペースや指導員が不足していて、このままでは新しい方の受け入れが困難な状態です。また、今は学童保育は父母での運営となっています。仕事するために預けているわけですが、運営がとても大変で負担となっています。市の条例が今年度変わって、土曜日保育は一人の学童が利用していても二人体制で行わなければならないと言われていています。最近ニュースでは保育士も不足しているので、早朝や夕方は一人体制でも良いというように緩和すると聞いています。学童も緩和していただくようお願いしたいです。

市長

下水の関係ですが、坂本の市政懇談会でもこの話がよく出ています。私が市長になって坂本の計画は3年間前倒しして進めています。それでも今言われたような状況です。坂本では過去に下水は不要だという意見があり、中津川市全域の下水計画で、坂本地域は一番

遅れてしまっているという経緯があります。旧中津川市のなかでもとりわけ遅れていました。このことは意識をして進めていきます。もう1点は、高齢者で一人やご夫婦で二人になられた方などが、たとえ下水道ができて下水道につなげる管を接続することが非常に少なくなりました。子どもが帰ってこなくて、家がどうなるかわからないので、本管につなげる工事はしませんと言われる方がいます。これが15年、20年前に本管ができていれば、もっと普及率が高かったと思います。使っていただく料金のなかでやっているのが大変厳しいのが現状ですが、普及に努めて工事を進めています。ただ、担当者から計画に入っていないという言い方があったという点は、しっかりと話をしますのでよろしくお願ひします。

苗木地域の学童保育は、この28年度で予定を組んでいます。今、苗木と蛭川がまったくないという状況で、そのことを解消したいということで、28年度で組み立てており、今言われたことを織り込めるように計画を進めていきますのでよろしくお願ひします。

定住推進部長

以前、水道部に所属していたので坂本地区の下水道整備については状況にある程度把握していますが、詳細を所管部署に調べさせます。

市長あいさつ

みなさんありがとうございました。筋書のない意見交換はドキドキなのですね。褒めていただくというのはめったにないわけですし、これがだめ、あれがだめ、こうしてほしいと話があります。現状のなかで、どこまでできるかということもその場で考えながらお答えしています。ただ、申し上げたように、私どもは必ず持続という言葉を使います。持続的発展も遂げながら、将来の中津川市の発展に向かって、特にこれからの12年間を大切な期間にしたいという思いで取り組んでいます。この27年から12年間の計画である総合計画に基づいて「まち・ひと・しごと創生総合戦略」。これは4年間、5年間の内容となっており、広報なかつがわで紹介されますので今日、こんなことを聞いてみたかったということが時間の関係で叶わなかったと思いますが、ぜひこういうものも見たいと思います。「まち・ひと・しごと創生総合戦略」のなかには、ただ働く場所を作るだけではなく、それぞれみなさんに参加していただくことを含めて「仕事をつくる」。そして、中津川に呼び込む。これは働く方でもあり、観光の方でもあり、また企業の誘致などを含んでいます。3点目に結婚・出産・子育ての希望を叶える。とりわけ若い方に住んでいただけるまちを作るということです。そして、4点目に、地域をつくる、つなぐ、安心をつくるというこの4つを掲げております。これを中津川市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」として掲げさせていただきます。これを今日皆さんからいただいたご意見に沿って進められる戦略であると私ども期待しております。また、ここにはありませんが、若い人達に負担をかけないような総合戦略を実践していく思いです。

行政サイドとしては、例えば広報に載せたから皆さんに見てもらえたり、ホームページ

に載せれば皆さんにホームページに入ってもらったという思い込みがあります。しかし、実際には8万の方全員に知ってもらうには、他に方法がないのですよね。昔は掲示板に貼って、60日間公示をしました。これは法律で認められているんです。聞いていない、知らないということがよくありますが、皆さんに知っていただく最大の機会は広報をしっかりと読んでいただくことで、どこいってもみなさんをお願いしていることです。みなさんが欲しい情報も必ず入っています。今日、私どもはご意見をいただきましたが、地元に戻られて皆さんのお知り合いに広報をしっかりと読むよう言ういただければ、もっと多くの方のご意見もいただけると思っていますので、よろしくお願いします。

本日、大変お忙しい時間のなか出席いただきましたことを心から御礼申し上げますとともに、本日のテーマである「こんなまちであってほしい」だけではなく、「こんなまちをつくりましょう」ということで、ぜひみなさんのお力を借りたいと思います。本日は本当にありがとうございました。